

家 庭

1 学習指導の改善・充実

(1) 学習指導の改善・充実の視点

共通教科「家庭」においては、人の一生を時間軸として捉えるとともに、生活に必要な金銭、生活時間、人間関係などの生活資源や、衣食住、保育、消費生活に関わる事柄を空間軸として捉え、各ライフステージの課題と関連付けて指導することが重要である。

また、生活に必要な知識と技術の習得を通して、共に支え合う社会の一員として主体的に行動する意思決定能力を身に付け、男女が協力して家庭や地域の生活を創造することができるようにすることも重視されている。

(2) 効果的な学習指導

学習指導要領改訂の趣旨を具現化し、効果的な学習指導を推進するためには、以下の3点に留意する必要がある。

- ① 理論とともに、実験・実習を通して生活における実践力を身に付けさせること。
- ② 「何が問題か」、「自分はどうするのか」、「社会の一員としてどのように行動したらよいか」などについて考えさせ、実践につなげるとともに、問題解決能力、意思決定能力を身に付けさせること。
- ③ 言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等を身に付けさせること。

そのためには、観点別評価を行い、各分野における実現状況をみると同時に、教師の指導計画・指導方法等が適切であったかを反省し、学習指導の改善に生かす必要がある。

また、評価の場面や方法を工夫したり、生徒の学習意欲を高める評価を工夫したりするなど、簡便で効果的な評価方法を研究することが重要である。

2 評価方法の改善・充実

学習指導要領を踏まえ、共通教科「家庭」の特性に応じた評価の観点は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4つとなっており、各観点の趣旨や特性は以下のとおりである。評価に当たっては、目標に準拠した評価を行い、生徒の学習の状況を的確に捉えて指導に生かしていくことが大切である。

【家庭科の評価の観点及び趣旨と各観点の特性】		
観点	趣 旨	特 性
関心・意欲・態度	家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	この観点は、「家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとする」とともに、「実践的な態度を身に付ける」ことを評価する。そのためには、生徒が主体的に取り組むことができる題材の設定や指導方法を工夫するとともに、学習したことを実生活で活用しようとする態度をワークシートやレポート等を通して効率的に評価することが必要である。
思考・判断・表現	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	従前の「思考・判断」から観点の趣旨を改めた。この観点は、課題を発見する力、課題解決に向けて工夫したり創造したりする力、分かりやすい資料を作成したり発表したりするといった表現力について評価する。そのためには、言語活動を一層重視して指導することが必要である。
技能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	この観点は、衣食住、保育、福祉、消費生活などの各分野において身に付けた技術を評価したり、各分野に関する情報を調査及び収集・整理したりする力について評価する。そのためには、客観性の高い評価ができるよう工夫する必要がある。
知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。	この観点は、衣食住、保育、福祉、消費生活などの各分野において必要な基礎的・基本的な事項を理解し、知識を身に付けているかを評価する。

3 学習評価の具体例

(1) 観点別学習状況の評価の進め方

科目「家庭基礎」における「評価の観点の趣旨」、「評価規準に盛り込むべき事項」、「評価規準の設定例」、「指導と評価の計画例」を次に示す。

1 単元又は題材の目標を設定する

■ 単元又は題材
 ・単元、題材の指導計画を作成する際は、「学習ごとのまとめり」を踏まえて目標を設定することが大切です。

ア 評価の観点の趣旨

【家庭基礎の目標】 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
【家庭基礎の評価の観点の趣旨】			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技術	知識・理解
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

イ 内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項

【「(2)生活の自立及び消費と環境 ア 食事と健康」の学習指導要領の内容】 健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理及び食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生涯を見通した食生活を営むことができるようにする。			
【「(2)生活の自立及び消費と環境 ア 食事と健康」の評価規準に盛り込むべき事項】			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技術	知識・理解
栄養、食品、調理及び食品衛生などの食生活、健康で安全な食生活に関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	栄養、食品、調理及び食品衛生などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、食にかかわる情報を適切に判断し、表現している。	主体的に食生活を営むために必要な栄養、食品、調理及び食品衛生など食事づくりの基礎的・基本的な技術を調理実習を通して身に付けている。	栄養、食品、調理及び食品衛生などについて、食品と調理などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

高等学校家庭科では、項目ごとに単元として指導と評価の計画を作成する。特に、「家庭基礎」などの2単位科目は、内容相互の関連を図り題材を構成した指導計画により、効果的な指導ができる。

ウ 評価規準の設定例

【「(2)生活の自立及び消費と環境 ア 食事と健康、オ ライフスタイルと環境」の評価規準の設定例】			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技術	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の食生活について関心をもち、調理実習・実験などに科学的な視点から取り組んでいる。 生涯を通して健康で安全な食生活を実践しようとしている。 持続可能な社会を目指し、自らの食生活を見直そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な問題ともかわる現代の食生活の問題点について考え、まとめたり、発表したりしている。 自分の食生活の自立に向けた課題について考え、まとめたり、発表したりしている。 家族の食事を管理運営することや食事を共にすることについて考え、工夫している。 食生活から、地球温暖化など環境問題に配慮した製品の選択、購入、使用方法や食生活の仕方を点検し、環境負荷の少ない食生活の工夫について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に食生活を営むために必要な情報を収集・整理することができる。 調理法の要点を踏まえ、目的を明確にした調理実習を通して調理技術を習得している。 適切な配膳や食事マナーを習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> 青年期と家族の各ライフステージの栄養的特徴について理解している。 青年期の毎日の食事が重要であることを理解している。 食事摂取基準や食品群別摂取量の目安などを理解している。 現代の食生活の問題点を理解している。 栄養の過多・過少 食事の規則性 食糧自給率の低下 加工食品、外食や中食への依存 食品の栄養的特質と調理上の性質について理解している。 調理による色、味、テクスチャーなどの変化を食品成分の変化とかわらせて科学的に理解している。 食生活の安全や衛生について実習を通して理解している。 食生活を取り巻く環境が変化している現状を理解している。 資源やエネルギーに配慮した食品の購入、調理、保存などについて理解している。 生産から消費に至る過程における食の安全・衛生について理解している。

2 評価規準を設定する

■ 評価規準
 ・設定した目標について、生徒がどのような学習状況を実現すればよいのかを具体的に想定したものです。
 ・観点ごとに設定し、「おおむね満足できる」(B)状況を示しています。

※「ア 食事と健康」と「オ ライフスタイルと環境」とを関連させて、題材を組み効果的な指導を行う。

3

評価規準を「指導と評価の計画」に位置付ける

■「指導と評価の計画」
・設定した評価規準と評価方法を指導計画に位置付けたものです。

○効果的・効率的な評価の進め方

1単位時間の中では4つの観点全てについて評価規準を設定するのではなく、目安として1単元(題材)内で1単位時間当たり1~2回の評価回数となるよう指導と評価の計画を作成します。

観察を中心とした授業中の評価と、ノートやレポート、ワークシート、作品などによる授業後の評価を適切に組み合わせ、全員の学習状況を適切に見取する方法を示します。

4

評価結果のうち「記録に残す場面」を明確にする

■評価の目的
・学習評価を行うに当たっては、生徒の学習状況を把握して次の指導に生かすことが重要です。

オ 指導と評価の計画

【指導と評価の計画の例】(19時間)

- ①食生活実態調査 2時間(第1次)
- ②調理用具の正しい使い方(家庭科技術検定4級実施) 2時間(第2次)
- ③調理実習 12時間(第3次)
- ④調理実習及び冬季休業課題レポートの交流 3時間(第4次)

	【ねらい】・◆学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第1次	<p>【ねらい】 食事の適正な量を理解し、栄養の過多・過少、食事の規則性など個人の食生活の問題点を考えさせる。</p> <p>◆前日の3食分の食事を絵を用いて記録する。 ◆食事摂取基準、食品群別摂取量の目安と比較し、自分の食生活の課題を見つける。 ◆各自の食生活と保健室の利用回数等との関連を調査する。(保健室利用回数、頭痛などの症状) ◆4~5人のグループで、意見交流をし、クラスの食生活の課題を明確にする。</p>			●		<p>● 食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を理解している。 ◇ペーパーテスト ● 自分の食生活の自立に向けた課題を考えている。 ◇ワークシート</p>
第2次	<p>【ねらい】 安全な刃物の取扱いや食材及び調理器具などの衛生的な管理と取扱いについて理解させる。</p> <p>◆家庭科技術検定食物調理4級の内容を活用し、包丁の基礎的・基本的な技術を習得する。</p>			●		<p>● 調理法の要点を踏まえ、調理技術を習得している。</p>
第3次	<p>【ねらい】 ・調理法の要点を踏まえ、目的を明確にした調理実習を通して調理方法を習得させる。 ・日常用いられている主な食品を取り上げ、食品の栄養的特質と調理上の性質について理解させる。 ・環境に配慮した調理を考え、工夫させる。</p> <p>◆教師による示範調理を見ながら、各自がメモするなど調理方法を理解する。(20分) ◆火加減、炒め方、調味料を入れるタイミング等を教師による示範調理から理解する。 ◆味や食感なども、味見をさせ感覚から理解させる。 ◆観察から感じ取った各自のメモを基に、グループにて調理を行う。(食材の分量のみを示し、調理方法は記述しない。)(60分) ◆試食をし、環境に配慮した後片付けを行う。(30分)</p> <p>実習1 アスパラガスとベーコンのペペロンチーノ、マドレーヌ 実習2 ロールパンサンド、人参と玉葱のスープ 実習3 鶏の照り焼き丼、豆腐とわかめのみそ汁、ほうれん草の胡麻和え 実習4 青椒肉絲、玉米湯、乳奶豆腐 実習5 秋刀魚のトマトソース煮、じゃがいものクリームグラタン添え 実習6 海鮮チヂミ、わかめスープ</p>		●	●	●	<p>● 各調理法の特徴について、調理器具の特徴や取扱いなどかかわらせて理解している。 ◇調理実習レポート ● 調理実習に意欲的に取り組もうとしている。 ◇観察法 ● 食生活の自立に必要な基礎的な調理ができる。 ◇観察法※1 ● 調理による色・味・テクスチャーなどの変化とかかわらせて科学的に理解している。 ◇ペーパーテスト ● 生ごみの廃棄、排水、加熱調理のエネルギーなど環境に配慮した後片付けの方法を工夫している。 ◇観察法、レポート</p>
第4次	<p>【ねらい】 ・自分の食生活を調理実習を通して振り返り、現代の食生活の問題点について考え、発表させる。 ・家族の毎日の食事を考え、生活の中で実践できるようにする。</p> <p>◆調理実習レポートを作成する。【家庭学習】</p> <p>①調理名 ②食材と分量 ③調理方法 ④完成図 ⑤考察 ⑥自分や家族の食生活の課題</p> <p>◆調理実習レポートを基に、自分の食生活から家族の食事を管理する事などについてグループで意見交流する。 ◆家族のために1食分の食事作りを実践し、その実践をレポートにまとめる。【冬季休業期間】</p>			●		<p>● 自分の食生活を振り返り、現代の食生活の傾向と問題点について考え、まとめている。 ◇レポート※2 ● 自分の家族や食生活に関心を持ち、実践しようとしている。 ◇レポート</p>

※1 【実習5の考察】生徒A
生まれて初めて魚をさばきました。上手にさばくコツは、背骨に包丁をあてて切り、音がコツコツ鳴るので、その音とともに切っていきます。素早くさばけるようになるには経験がかなり必要です。【技能】

※2 【5回の実習を終えて】生徒B
調理は手際の良さやスピードが求められます。スピードを速くするためには、下準備が大切であることが理解できました。これからも食生活に関心を持ち、家での食事の準備にもっと協力していこうと思います。【思考・判断・表現】

(2) 観点別学習状況の評価の実際

科目「生活デザイン」における単元「消費や環境に配慮したライフスタイルの確立」について、「学習指導案」、「ワークシート」、「指導と評価の計画例」を次に示す。

ア 学習指導の実際

評価規準は、「おおむね満足できる」状況(B)を示したものである。そのため、この状況を実現していない「努力を要する」状況(C)と、質的な高まりや深まりをもっていると判断される「十分満足できる」状況(A)について、具体的にどのような状況であるかを示し、指導することが必要である(※1)。また、生徒が「努力を要する」から「おおむね満足できる」や「十分満足できる」状況となるよう、指導の手立てや働きかけを示すなど指導方法を工夫する必要がある(※2)。さらに、グループ学習における個の指導の評価(※3)や、題材構成(※4)などの工夫が必要である。

授業を行う

○指導と評価の一体化

各学校では、生徒の学習状況を評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方の工夫改善を図っていくことが重要です。

※1 本時における【思考・判断・表現】の評価規準

○A「十分満足できる」状況
グループ内で意見を共有し、生活資源や社会保障制度を様々なリスクへの対応や回避のために役立てるなど、リスクの克服方法や対処の方法について具体的に考えている。

○C「努力を要する」状況
自分の考えを他者へ伝えることができず、グループでの意見交換に参加していない。

※2 C「努力を要する」と判断した生徒への手立て

グループ学習に参加できない生徒には、すごろくに必要の小道具の製作や他のグループの様子を観察し、グループのメンバーに報告させるなどの役割を与え、積極的に参加するように働きかける。

※3 グループ学習における個の評価の工夫

グループ学習に入る前に、個人の考えや意見を記入する場面を設定しワークシートに記入させることで、個々の生徒の取組状況を評価する。

【思考・判断・表現】
自分の考えを他者へ伝え、グループで意見共有し、リスクの克服方法や対処方法について考えている。
〈評価方法〉
◇観察(グループ協議、すごろく作成)
◇ワークシート②

※3 グループ学習における個の評価の工夫

机間指導を行い、グループの活動への取組の様子(リーダーシップの発揮・活動への参加の度合い、役割・貢献度等)を観察し、評価する。

※4 題材構成の工夫

「生涯の経済計画とリスク管理」と「生涯の生活設計」とを関連させて、題材を組み授業を展開する。このことにより、人の一生における就職や結婚などのライフイベントを通して重要な課題を認識させ、より具体的な自分の目指すライフスタイルについて考えさせることができる。

学習指導案「生活デザイン」の実践事例

(2)消費や環境に配慮したライフスタイルの確立
ア 消費生活と生涯を見通した経済の計画 (エ)生涯の経済計画とリスク管理
ウ 生涯の生活設計 (3,4/6時間)

本時の目標	家庭の経済生活の諸活動についての具体的な事例を収集することができ、事故や病気、失業などの不測の事態などのリスクにどのように対応したらよいかを考える。	言語活動	グループで多事多難な人生をどのように立て直したり、リスクを回避できるかを協議し、人生すごろくのデザインについて考えをまとめる。
指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準等
<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の復習。 本時の学習目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人生には様々なリスクとそれの対処方法があり、リスク管理の必要性について関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート①と付箋紙を配布する。 	
<p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 人生における様々なイベントを資料を参考に収集し、ライフステージ順に整理させる。 マイナスイベントの対策・克服方法を今までの学習で身に付けた知識や技術を活用し、考えさせる。 グループで各イベントやその対策・克服策を交流させ、どのような人生すごろくにするのか考えをまとめる。 グループで人生すごろくを作成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、人生におけるプラスイベントとマイナスイベントを考え記入する。 ワークシート② マイナスイベントの対策・克服策を考え、記入する。 ワークシート② 付箋紙に両イベント及び対策・克服策を書き写す。 グループで各自の付箋紙をもとに各イベントやその対策・克服方法を協議しながら、用紙にライフステージ順に並べ、人生すごろくのデザインを考える。 グループで人生すごろくをイラストや色を工夫し、作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単なるライフイベントの羅列に終わらず、不測の事態や困難なライフイベントとその対処方法を記入するよう指導する。(机間指導) 色分けした付箋紙を用い、各項目の整理や張替えをしやすくする。 グループでの意見交換から、自分が気付かなかったリスクやその対策について認識させる。 すごろくの作成には十分な時間を取る。 	<p>【技能】 家庭の経済生活の諸活動についての具体的な事例を収集・整理することができる。 〈評価方法〉 ◇ワークシート② ◇付箋紙</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 再度試行させ、作成で工夫した点を記入させ、自分たちのすごろくのイメージを具体的にし、発表方法を考えさせる。 次時の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> すごろくが完成したら再度試行し、作成で工夫した点を記入し、自分たちのすごろくのイメージを具体的に考えさせる。 ワークシート② 	<ul style="list-style-type: none"> 他グループの様子やよい点を随時取り上げ、クラス全体にフィードバックする。(机間指導) 工夫した点とその理由を記入するよう指導する。(机間指導)

○「十分に満足できる」状況(A)の例
 金銭、健康、家族、友人、もの、空間、技術、情報など、広い視点で生活資源を捉えており、単なるライフイベントの羅列に終始していない。不測の事態(家族の死、病気、事故、災害、失業など)と家計とを関連付けて考えている。

○「十分に満足できる」状況(A)の例
 工夫した点について、家庭科で学習した内容と関連付け、観点を示しながら具体的に記述している。生涯を見通す視点や多面的に一生を見つめる視点を持ち、社会環境と結び付いた、現実的な内容である。

イ【思考・判断・表現】の観点における「十分に満足できる」状況(A)

◇ワークシート② 人生すごろくを作ろう

1	自分のスタートは?・就職・大学進学・短大進学・専門学校進学・就職
2	何歳まで生きたいか?
3	人生のゴールは何だろう?
4	今後こんなことが起きたらいいというプラスイベントと、こんなことは起こってほしくないというマイナスイベントを思い付くだけ書いてみよう。【思考・判断・表現】
①	①プラスイベント ②マイナスイベント ※「マイナスイベント」を全部まとめて、「リスク」と言います。
5	上記リスクについて、対策を考えてみよう。 【思考・判断・表現】
①	①リスク ②考えられる対策
6	付箋紙に書き写そう ・プラスイベントは桃色の付箋紙へ ・マイナスイベントは青色の付箋紙へ ・マイナスイベントの対策・克服方法などは黄色の付箋紙へ、それぞれ書き写す
7	模造紙に人生すごろくを作ろう。 【技能】 生活資源について ・あなたが今持っているものは?⇒ ・将来必ず手に入れたいものは?⇒ ・それはなぜ?⇒ ・そのためにするべきことは?⇒
8	自分の班のすごろくを作成する際に工夫した点 【思考・判断・表現】

○「十分に満足できる」状況(A)の例
 生活資源や社会保障制度等を様々なリスクへの対応や回避のために役立てるなど、リスクの克服方法や対処の方法について具体的に考えている。

ウ 指導と評価の計画例

【指導と評価の計画例】(6時間)

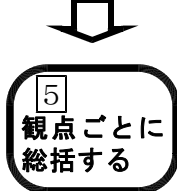
①人の一生におけるリスクとリスク管理	2時間(第1次)
②人生すごろくの作成	3時間(第2次)
③人生すごろくの発表	1時間(第3次)

	【ねらい】・◆学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第1次	【ねらい】 ・人の一生の各ライフステージにおける様々なリスクと、対処方法について理解させる。 ・生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解させる。					
第2次	【ねらい】 ・作業を通して、人生におけるリスク管理の重要性に気づき、将来の生活について必要な金銭、生活時間などの生活資源について具体的に考えさせる。 ◆4～5人のグループで、事前のワークシートを基に、内容が充実したすごろくになるように、工夫して作成する。その際、リスクにより失う可能性のあるものと、その具体的な対処方法について書く。	●	●	●	●	・人生すごろくを具現化するための情報を収集・整理することができる。 ◇作品(すごろく) ・人生におけるリスク管理の重要性に気づき、リスク対策について具体的に考えている。 ・生活資源を有効に活用した生活設計について具体的に考え、まとめている。 ◇ワークシート②

(3) 観点別学習状況の評価の総括

ア 題材又は単元ごとの観点別評価及びその総括について
 各題材や単元で身に付ける資質や能力を明確にし、題材又は単元ごとの評価計画を作成して具体的な評価規準を設定する。その際、題材又は、単元によって重視する観点や評価規準があれば、評価計画作成の段階から評価回数を多くしたり、重み付けをしたりするとともに、観点の趣旨にふさわしい評価方法を適切に選択し組み合わせるなど、多面的に評価する必要がある。

イ 学期及び学年の各科目の観点別学習状況の評価
 アと同様の方法で、題材又は単元ごとの観点別学習状況の評価を行い、観点ごとに総括して、学期ごとの観点別学習状況の評価とする。なお、状況(C)と判断した生徒は、補充的な指導の成果を踏まえ修正するなど生徒の進歩の状況についても配慮する必要がある。



■評価の目的
 ・指導要録の記載に向けて観点ごとに評価結果を記録に残し、それを総括することも必要です。

Topic

「家庭総合」における道德教育

高等学校における道德教育については、各教科・科目等の特質に応じ、学校教育全体を通じて、適切に指導することが求められている。そのため、家庭科においても教科の目標等との関連に配慮した年間指導計画を作成するとともに、道德教育の全体計画を具体化した活動を「別葉」にして作成するなど、年間を通して活用しやすいものとするのが考えられる。次の【表】に「家庭総合」4単位を第1学年、第2学年にて分割履修する場合の例を示す。

※1 中学校「道德の内容」を参考としている。

【表】A高等学校「家庭総合」における道德教育との関連（例）

道德教育の内容項目（例）		学	月	科目「家庭総合」の指導内容	
内容項目	内容項目の説明※1	年			
1 自分自身に関する事	基本的な生活時間	(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。	2	5	(4) ア(7) 人の一生と食事 「食生活の自立と調理」
	希望・勇氣	(2) より高い目標を目指し、希望と勇氣をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。	2	2	(5) イ ライフスタイルと生活設計 「ワーク・ライフ・バランス」
	自主・自律・責任感	(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。	1	5	(1) ア(7) 人の一生と発達課題 「自己や他者の尊重、自立、共生」
	理想の実現	(4) 真理を愛し、真実を求め、理想の現実を目指して自己の人生を切り拓いていく。	2	2	(5) イ ライフスタイルと生活設計 「自分が理想とする人物の生き方」
	個性伸長	(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	1	9	(1) ア(ウ) 生活の自立を目指す上での意思決定 「価値観やライフスタイル」
2 他の人とのかわりに関すること	礼儀	(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。	1	12	(4) イ(7) 人の一生と被服 「被服の社会的機能」
	思いやり	(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。	2	9	(2) ア(7) 子どもとかかわる 「乳幼児との触れ合い体験」
	異性理解	(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。	1	5	(1) ア(イ) 青年期の課題 「男女共同参画社会の実現」
	個性伸長	(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。	1	3	(2) ウ 共生社会における家族や地域 「NPO団体の活動の実際」
	感謝	(5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心もち謙虚に他に学ぶ。	1	5	(2) ウ 共生社会における家族や地域 「ノーマライゼーションの理念」
3 自然や豊かなものとのかわりに関すること	生命の尊重	(1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。	2	9	(2) ア(エ) 子どもの権利と福祉 「児童虐待の現状」
	自然への畏敬の念	(2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心もち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。	2	9	(4) エ(イ) 環境保全に向けたライフスタイルの確立 「Think globally, Act locally」
	生きる喜び	(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。	2	12	(2) イ(ウ) 人間の尊厳とケア 「人生の終末期における人間としての尊厳」
4 集団や社会とのかわりに関すること	権利と義務	(1) 法やまじりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。	1	6	(3) ウ(イ) 消費者問題の現状と課題 「表示偽造・製品事故」
	公德心	(2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。	1	12	(4) エ(イ) 環境保全に向けたライフスタイルの確立 「地球環境保全に貢献できるライフスタイルの実践」
	公正・公平	(3) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。	2	1	(2) ウ 共生社会における家庭や地域 「社会福祉の基本的な理念」
	集団生活の向上	(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。	1	6	(2) ウ 共生社会における家庭や地域 「地域住民によるコミュニティ活動の実際」
	勤労奉仕	(5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。	2	3	(6) 学校家庭クラブ活動 「社会参画や勤労への意欲」
	家族愛	(6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって、充実した家庭生活を築く。	2	12	(1) イ(7) 家庭の機能と家族関係 「家庭の機能と家族関係」
	学校生活	(7) 学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。	2	3	(6) 学校家庭クラブ活動 「ボランティア活動」
	郷土の発展	(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。	2	5	(4) ア(ウ) 食生活の文化 「行事食や郷土食の継承」
	伝統の理解	(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。	1	12	(4) イ(ウ) 衣生活の文化と製作 「和服の着装」
	国際理解	(10) 世界の中の日本人としての自覚をもち国際的視野に立って、世界の平和と人類幸福に貢献する。	2	8	(4) エ(7) 持続可能な消費 「真の豊かさの追求」